ニュースレター　No. ５８　2020/9/9　（通算 75）
市民自治あかし
http://shiminiichi-akashi.net/

第 25 回　市民まちづくり連続講座 in 明石

SDGsって、なに？ 新・長期総合計画は先送りされたが…

「市民まちづくり連続講座」は、９月は市民自治あかしの総会を兼ねたトークサロン「草の根の市民自治を掘り起こそう」（下記案内参照）を開催するために１回お休みし、10 月 31 日（土）に第 25 回講座を開催します。

テーマは「ＳＤＧｓって、なに？」。副題として明石市が１年先送りした「第６次長期総合計画」に代わるものとして策定中の「あかしＳＤＧｓ推進計画」との関連についても議論します。

日　時　　２０２０年１０月３１日（土）午後１時 30 分～４時 30 分
会　場　　ウィズあかし８階　市民活動支援センター・フリースペース（アスピア明石８階）
テーマ　　ＳＤＧｓって、なに？　（新長期総合計画は先送りされたが…）
講師　丸谷聡子さん（環境教育コーディネーター、日本環境教育学会副会長、明石市議）
※資料代 300 円。事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

「ＳＤＧｓ」（エスディージーズ）とは、2001 年に策定された「ミレニアム開発目標」（ＭＤＧｓ）の後継として 2015 年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核を構成する「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals）です。2030 年までに世界で実現をめざす「17 のゴール」「169 のターゲット」を記載し、「だれ一人取り残さない」ことを誓っています。

ＳＤＧｓは発展途上国だけでなく、先進国自身が取り組む普遍的なもので、国際社会共通の目標になります。

明石市は 2020 年度を目標年次とした第５次長期総合計画の後継計画になる第６次長期総合計画を、「あかし市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体化して「あかしＳＤＧｓ推進計画」（2021～2030 年度）として策定する方針を定め、今年２月に「あかしＳＤＧｓ推進審議会」を発足させましたが、３月に予定した第２回審議会をコロナで中止し、その後計画策定を１年先送りする方針を明らかにしています。

講座では「ＳＤＧｓ」を学ぶとともに、まちづくり計画の具体的な課題とＳＤＧｓをどのように整合させるのかなどの課題について、幅広い観点から議論します。

トークサロン　草の根の市民自治を掘り起こそう！

市民自治あかし恒例の「トークサロン」を、今年は新型コロナ感染症の影響から９月に延ばして開催することになりました。明石のまちづくりと市政の課題を多角的に検証できる貴重な機会です。新庁舎建替え計画や新幹線車両基地計画、市議会の改革、市民参画のあり方や地域の課題など、テーマは盛りたくさんです。まずはお越しください。

日　時　　２０２０年９月２６日（土）午後１時 30 分～４時 30 分
会　場　　ウィズあかし８階　市民活動支援センター・スペースＡＢ（アスピア明石８階）
※市民自治あかしの第８回総会ですが、どなたでも参加できる場として明石のまちづくり課題とこれからの「市民まちづくり」のあり方を幅広く議論します。
※事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

政策提言市民団体 市民自治あかし　E-mail:shiminjichi.akashi@gmail.com
事務局：明石市太寺 4-9-17　TEL078-913-1241　fax078-914-8039　http://shiminjichi-akashi.net/

市民まちづくり連続講座 in 明石　今後の講座開催計画

回	日　時	テーマと内容	会　場
26	11 月 29 日(日)	住民投票条例否決と「市民参画システム」の検証（仮題）	ｳｲｽﾞあかし８階ﾌﾘｰｽﾍﾟｰｽ

「SDGsのまちづくり」めざす街に、新幹線基地は似合わない！

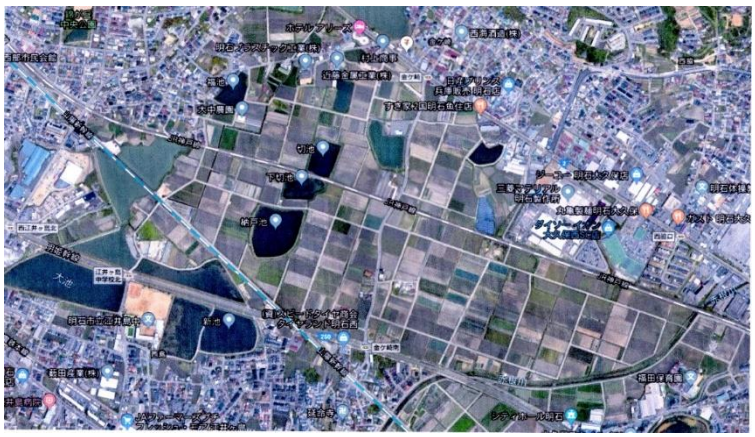
第 24 回市民まちづくり講座「新幹線車両基地の建設計画を考える」から

8 月 29 日に開催した講座「新幹線車両基地の建設計画を考える」には 60 名を超える市民が参加し、関心の高さを裏づけました。

講座ではまず、ＪＲ西日本ＯＢの石井勝幸さんが明石市内への車両基地建設計画の背景について、リニア新幹線計画や巨額の建設資金、ＪＲ東海や同西日本の財政窮迫事情、明石車両基地の具体的な計画と地域にもたらされる影響、これからの運動のあり方などについて詳細な資料をもとに説明、問題提起しました。

続いて、明石市議でもある環境教育コーディネーターの丸谷聡子さんが、コロナ後の社会のあり方や「ＳＤＧｓのまちづくり」をめざす明石市の方針と新幹線車両基地の建設が相いれないことを、自然環境や農業振興を大事にする視点から問題提起しました。

（写真は新幹線車両基地と周辺開発の対象になっている大久保、魚住町の市街化調整区域）



なぜ明石に新幹線基地？

明石に車両基地が計画された背景には、リニア新幹線の大阪延伸や北陸新幹線の大阪乗り入れなどで現在の新大阪駅地上ホームでは対応できなくなり、新大阪駅を「大深度地下駅」に改造する「地方創生回廊中央駅構想」(2018 年）がある。

この構想が実施されると現行の大阪・鳥飼基地も使えなくなり、ＪＲは明石辺りに車両基地を求めざるを得なくなる。

飽くなき開発発展をめざした国家的プロジェクトによるものだが、コロナ後の鉄道輸送人員の大幅縮小が長期化するのに加えて、本格的な人口減少時代に突入する中で、このような「拡張拡大一辺倒」の開発計画が成り立つのかどうか？

今年３月に具体的な計画を提示するとしていたＪＲが、計画提示を無期限に先延ばしした状況が何よりも「経営面での深刻さ」を著わしている。

コロナ後の社会とグリーンリカバリー

新型コロナ感染症のパンデミックを体験した世界はいま、脱炭素社会、災害や感染症に強い社会と経済、生態系と生物多様性を保全する「グリーン・リカバリー」へと向かう。食糧危機を控えて食料の地産地消、自給も大きな課題だ。農・漁業、林業の一次産業を持続可能な地域にしていくことが求められている。

時代と逆行した大規模開発ではなく、ＳＤＧｓのまちづくりをめざす明石の地域ビジョンを具体的につくりだして、コロナ後の社会にふさわしいまちづくりの目標をまとめていくことが大切だ。

車両基地などには目もくれない、夢あふれる素晴らしいまちづくりビジョンを生み出そう。

自然の宝庫と優良農地まもる知恵

車両基地が計画されている地域は、明石市にとっては都市内に残された貴重なグリーンゾーン。長期にわたって市街化を抑制する「市街化調整区域」に指定し、市は「優良な農業振興地域」と位置づけてきた。コウノトリの飛来地として今年初め巣塔も建設された。18 種の貴重種が生息し、71 種の野鳥も観測されている「自然の宝庫」だ。

農業者の一部には「後継者もなく、営農の将来を見通せない」と農地売却を歓迎する向きもあるが、講座では「農地と農業は、農家のためだけにあるのではない。市民と行政が力を合わせて後世の世代へ受け継いでいく、かけがえのない資産だ」と思考の転換を促す意見に、参加者から「目からウロコ」と共感もあった。

明石の自然を守るには農業を守らねばならない。自然を失うと農業も衰退する。まち全体で農地を守るために、いろんなアイデアや知恵を集めよう―と呼びかけられた。

「まるごと明石」11 月 14 日現地見学会

明石の自然と環境を考える会（まるごと明石）が 11 月 14 日（土）午後、江井島中学校コミセンに集合して、車両基地が計画されている現地の見学会を計画しています。

地域一帯の素晴らしさを五感で体験しよう。